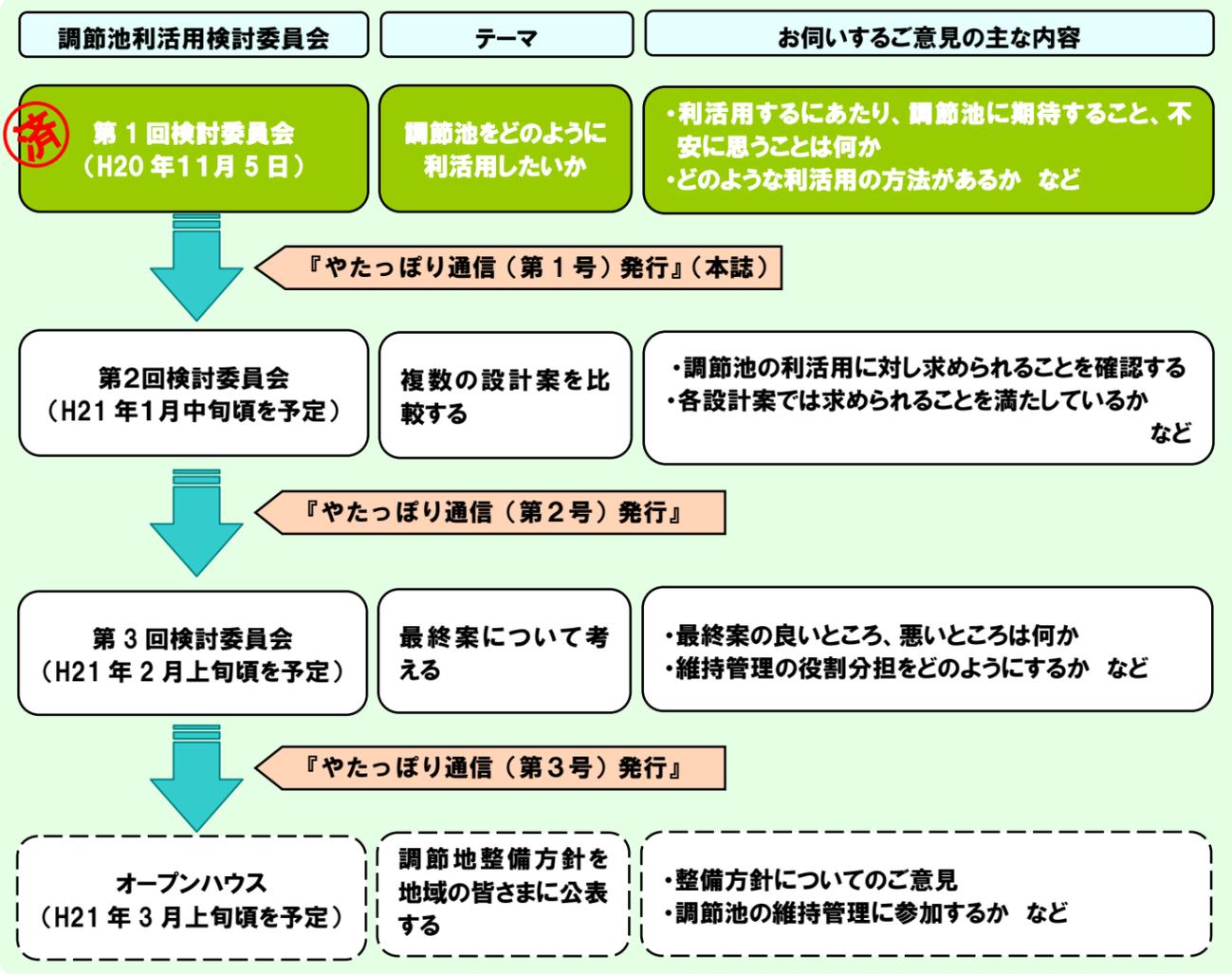


男井戸川調節池利活用検討委員会の今後の主なスケジュール！！

男井戸川調節池利活用検討委員会は、概ね以下の内容での開催を予定しています。また、第3回検討委員会終了後に、地域にお住まいの皆さまに広く情報を提供し、ご意見を伺うためのオープンハウス（パネル展示）を行う予定にしています。



検討委員会に関心のある方は・・・

第2回男井戸川調節池利活用検討委員会は、第1回検討委員会で伺ったご意見をもとに、調節池の利活用に関する具体案を幾つかご提示し、参加者の皆さまからご意見、アイデアを伺っていきます。さらに、第3回検討委員会では、最終案についてのご意見を伺い、県としての最終案を確定させていく予定です。

県では、今回のように県民参画による計画づくりを積極的に進めています。こうした取り組みに関心のある方、男井戸川調節池の利活用についてご興味のある方がいらっしゃれば、参加は自由ですので、下記お問合せ先までご連絡ください。

発行/お問合せ先: 群馬県 中部県民局 伊勢崎土木事務所(担当: 工務第一係)

〒372-0007 群馬県伊勢崎市安掘町247-1

TEL: (0270) 25-4010 (代)

Fax: (0270) 21-1046



男井戸川調節池利活用検討委員会

発行: 平成20年12月 1日
群馬県 中部県民局 伊勢崎土木事務所

やたっぱり通信

Vol. 1

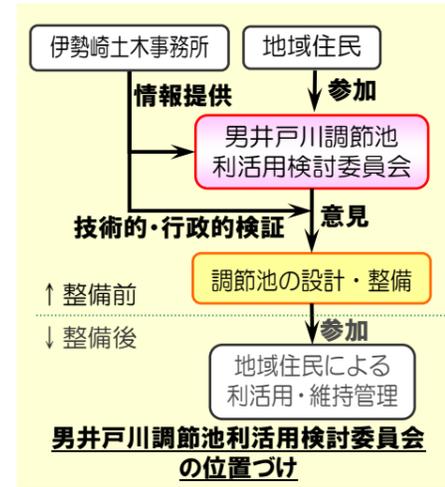
男井戸川調節池利活用検討委員会が発足しました！！

伊勢崎市街地を流れる男井戸川は、河道が狭く屈曲して流れているため、ちょっとした夕立でも頻りに溢水するなど周辺地域に多くの浸水被害をもたらせています。こうした被害を軽減させるため、県では平成12年度より男井戸川改修事業に着手し、今年度はJR両毛線脇に計画している「男井戸川調節池」の設計検討を行っています。



■男井戸川右岸の調節池整備予定地

調節池では、洪水時以外は水が入っていない状態にあるため、その広大な敷地の利活用を図ることができます(次項参照)。



そこで、今回、男井戸川調節池の有効的な利活用について、地域の皆さまからご意見やアイデアを頂きながら設計検討を行うため、『男井戸川調節池利活用検討委員会』が発足しました。

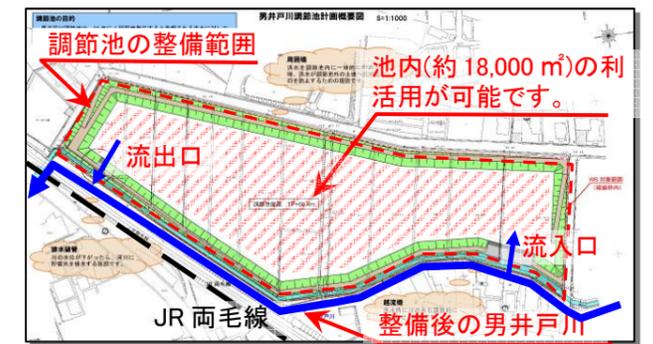
この検討委員会は、来年3月までに計3回の開催を予定しています。皆さまからいただくご意見をもとに、県が技術的・行政的な検証を加えた設計案を検討し、3月までには最終案を決定していく予定です。

(※本検討委員会の検討内容については最終ページをご参照下さい。)

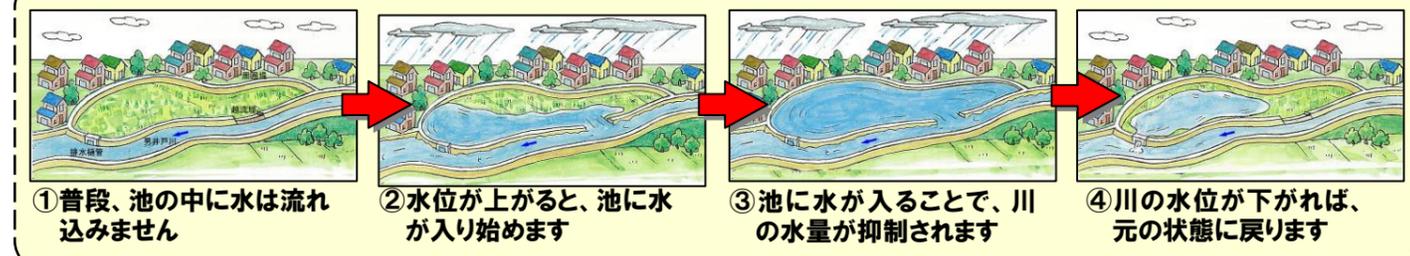
男井戸川調節池の仕組みと利活用について

調節池とは、洪水時、河川の水位が一定以上になったときに一時的に『池』に水を溜め込み、下流域での被害の軽減を図るためのものです。川の水位が下がれば池に溜まった水は徐々に排水され、もとの状態に戻ります(下図参照)。

検討委員会では、水がない状態での池内の維持管理を踏まえた利活用方策について、地域の皆さまと共に検討を行います。



男井戸川調節池の整備イメージ



第1回男井戸川調節池利活用検討委員会が開催されました！！

去る11月5日に殖蓮公民館にて、男井戸川流域にお住まいの関係者の方、一般公募の方など合計29名のご参加をいただき、第1回検討委員会が開催されました。

はじめに、事務局より検討委員会の進め方や調節池に関するこれまでの経緯、設計の考え方などについて説明がありました。その後、平成13年度に発足した『男井戸川(やたっぼり)川づくり懇談会』について、座長である下城茂夫氏より懇談会の取組み経緯などについての説明がありました。



下城氏による懇談会の報告の様子



グループでの議論の様子

つづいて、本検討委員会のアドバイザーである群馬大学の石川真一先生(社会情報学部教授)より、地域の植生に関する説明があり、絶滅危惧種など男井戸川周辺に生息する貴重な在来種の保全についてアドバイスを頂きました。

調節池の利活用については、参加者を3グループに分け、『利活用するにあたり期待することや不安に思うこと』、『どのような場になってほしいか』、『具体的な利活用方法』などのご意見やアイデアを、ワークショップ形式により自由にご発言いただきました。

各グループで出された主なご意見やアイデアをご紹介します！！

★調節池の基本的な考え方：**治水上で安全なことが第一 + 池の有効利用を図る**
市民による維持管理は持続性が大切、できることを考える



★期待すること

○自然植生などの再生・活用

- ・タナゴやナマズ、シジミの生息環境の復活
⇒水田や池、水の流れをつくる、湧水の利用
- ・水を入れ、貴重な植生を保全・復活させる
- ・生息する魚のために部分的に深い池をつくる
⇒バードサンクチュアリとしても機能する
- ・水生植物園を備えた公園
- ・周囲の土手以外は自然のまま残す
- ・湿地帯にする⇒赤城山の覚満淵のように

○自然を楽しむ場として利用

- ・ピオトープの池を子どもたちと地域の交流の場、環境学習(植物・昆虫観察)の場にする
- ・木道をつくって中を歩ける工夫
- ・散歩道、お花畑として(この近くに公園がない)
- ・菜の花の公園、季節ごとの花を植える
- ・ボランティアで維持できる範囲で植物を植える
- ・家庭菜園、貸出し農園、市民農園にする
- ・掘りこんで池として活用(釣堀など)

○文化・歴史の再生

- ・旧石器時代からの食の場の復活
- ・男井戸川の源流の復活
- ・文化財をうまく活用した場

○広場としての利用

- ・高齢者、子どもたちのための憩いの場、安心して遊べる場⇒箱庭の様な作り方、遊具は不要
- ・小学校や幼稚園、子ども会などが利用できる場
- ・芝生の運動公園、野球、グランドゴルフなどのスポーツの場として利用

○その他の利用

- ・駐車場の設置(調節池予定地敷地内)
⇒側道に路上駐車が多数、これからの活用を考えると必要
- ・道路側に歩道の設置⇒人の通行が意外と多い
- ・太陽光発電、水力発電をやったらどうか

★不安に思うこと

○流入時、出水時の事故防止

- ・水が流入した時の転落事故が不安
- ・流入時の安全対策が必要
- ・調節池があふれないか心配
- ・増水のタイミングを地元の人に伝達できるか
- ・ゲリラ豪雨対策が必要
- ・水の貯め方に工夫が必要、公園スペースと貯水スペースを明確化すべき
⇒水の貯まるスペースと公園スペースを分けたほうが安全
- ・市道の水が今の田んぼに流れなくなるので市道が冠水しないか心配

○防犯・安全の確保

- ・広大な場所だと暗く、夜間の防犯対策が必要
- ・子どもの安全の確保
⇒死角などの防犯上の安全性
- ・子どもに危険はないか(雑草による死角など)

○ゴミの対策、草刈などの管理

- ・草の刈り取り、ポイ捨て、不法投棄対策が必要
- ・除草剤は使えるのか
- ・良い施設にすれば人が増え、ゴミが増える
- ・水がない時、アレルギーの元になる花粉がつく
⇒植物はあまり無いほうが良い
- ・堀削時に異臭がしたのでしっかり管理してほしい

○その他

- ・大風呂敷を広げすぎず、できることを考える
- ・市民による維持管理は、持続性が大切
- ・調節池の整備でどの程度の効果があるのか知りたい
- ・実施中の文化財調査の結果が知りたい



★調節池の管理

- 河川としての管理+利用する人の手で管理すべき
- 地区会による草刈りボランティア
- 場所を決めて自分たちでの管理が必要
- 管理した人にだけバッジを配布したり、ネームプレートで表示したらやりがいや池への愛着が高まる
- 小中学校と連携した「クリーン大作戦」、小中学校の総合学習の一環として花植え、ゴミの撤去
- 維持管理を簡略化するために、常時水を入れたらどうか(台風シーズンは空にする)

- 水が入ってもダメージがないような整備が必要
- ・自生しているそのままの植物にすれば、手入れの必要がなく、憩える場所にできる
- 全面をボランティアで管理していくのは難しい
- 草取り等を子どもに期待するのは難しい
- 安心を得る人たち(下流住民)からの応分の負担を検討すべき

